

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』
あいさつ(協議会 猪俣会長)

四者協定締結とまちづくり認定の認定書を頂きまして、皆様方のご支援とご協力の賜物と感じております。「産・官・学・民」この連携を密にとりながら、住み易い吉沢地区を作ろうと考えています。
今日は第9回ワークショップということで、5月に作付けた作物の収穫ということ、いつも歩いている散策路ではなく、公民館裏の里道を通り里道を散策し、公民館に戻るコースを予定されております。
収穫が終わった後は、公民館2階のホールで懇親会を予定されております。地元の方が作った料理を今日は味わって頂きたいというふうに思いますので、最後までよろしくお願い致します。



●東京農業大学あいさつ(農大 麻生教授)

これまでを振り返りますと、3年前から、まず一年間かけてこの地域のコンセプト、基本的な構想計画を議論しました。2年目からワークショップを行い、今回で9回目を迎えました。その成果が、連携協定としてごぎつたという事でございます。四者協定の意味を考えて見ますと、これからの成熟社会では従来と違ったより高度なまちづくりが求められているという事です。従来型のまちづくりでは各機関が独立して取り組んで来ました。マイナスの状態から問題を解決するレベルまではそれでも良いと思います。しかしながら、これからは、農業や林業、文化等まちづくりの複合した仕組みが必要であり、それは連携という形で、お互いが補い合っていくような時代になりました。この地区はこれからの新しい21世紀社会の新しい地域のあり方を先導するモデルとして、大変期待をしております。
もう1点、農大の成人学校で、4月から新たに「みどりの地域作りコース」を作ることになりました。公園管理、里山管理、自然保護といった担い手を養成するコースです。それを生徒30人で来春からスタートさせる事になりました。座学だけではなくフィールドに出ながら技術的なノウハウを学ぶという事で、ゆるぎ地区にもお世話になるかもしれません。
また、11月18日(木)には第1回目の地域再生研究部会があります。これからも宜しくお願い致します。



●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 久永部長)

先ほどお話がございましたけれども、四者協定という取り決めをしました。主体は協議会で、平塚市と東京農大、日本土地建物の4者でお互い持っているものを協力していこうということです。この地区の最大の資源は「ここにお住まいの方」、「里地里山」がこの地区の最大の資源でございます。この資源を活用してこれから吉沢のまちづくりをどうしていくか、という具体的なことを協議会の皆さんで考えて頂いて、その考えに対して平塚市も、東京農大さんも日土地さんも、お互い持っているものを持ち寄り、皆さんと考えてやっていこうという仕組みです。今日は基となるものが文章で出来たということです。これからはお互い、協力連携、協働しながら、平塚市域のゆるぎ地区に限らず吉沢地区で、皆さんで力を合わせていきたいと思います。平塚市もできる限りの支援をしていきたいと思いますので、吉沢地区の皆さんの思いを大事にして頂きたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



ワークショップの概要

四者連携協定書 締結式



「四者連携協定」

平塚市吉沢地区活性化に向け、「産・官・学・民」が包括的に連携するための協定です。人材育成、仕組みづくり等、地域再生活活性化に向けて相互に協力することを目的としています。

地区まちづくり協議会認定書 授与式



「湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会」は、平塚市まちづくり条例第10条 6項に基づく「地区まちづくり協議会」の団体認定の申請を行い、11月10日(木)平塚市より市内第1号の認定を受けました。

農的活動(農作物の収穫)



→ 収穫作業
→ 各班の指導者の説明



→ ショウガ
→ サトイモ



→ サツマイモ
→ ヤーコン・コンニャク



地域を再発見すべく地域を散策

3号はまだ判られていませんでしたが、ヒューマンスクールのあせ道をすすみました。
4車を基準に造られた道路。
5号の畑と畑が望めます。
6「ゆるぎ地区」が目の前に広がっています。
7里道の途中で道祖神のお出迎えしてくれました。
8農業に取り組んでいる姿も田園景観の大切な要素です。
2畑の先に伊勢原方向の街が見えます。
1吉沢小学校を超えて「ゆるぎ地区」の眺望

懇親会の様子



ふかしイモ キノコの炊き込みご飯 鬼まんじゅう等 豚汁 オバケカボチャ